



平成 25 年 5 月 8 日

各 位

会 社 名 日本光電工業株式会社
代表者名 代表取締役社長執行役員 鈴木 文雄
(コード番号 6849 東証第一部)
問合せ先 執行役員経営企画室長 平岡 俊彦
(TEL. 03-5996-8003)

新中期経営計画の策定について

当社は、「病魔の克服と健康増進に先端技術で挑戦することにより世界に貢献すると共に社員の豊かな生活を創造する」という経営理念のもと、グループの持続的な発展と企業価値の向上を目指し、2013～2016 年度の 4 ヶ年中期経営計画「**Strong Growth 2017**」を策定しましたので、その概要をお知らせします。

当社は、2010 年に 10 年後のあるべき姿として長期ビジョン **The CHANGE 2020 -The Global Leader of Medical Solutions-**を策定し、その実現を目指しています。

第一ステージの中期経営計画「**SPEED UP III**」(2010～2012 年度)では、コア事業の拡大・強化に積極的に取り組み、目標の売上高 1,300 億円、営業利益 130 億円を達成することができました。また、国内急性期病院市場において競争優位性を確立するとともに、esCCO^{※1}、導出 18 誘導心電図^{※2}、CO₂センサといった当社独自のパラメータ測定技術を商品化し、グローバルでのブランド力向上につなげました。一方、新興国市場での売上高は目標に届かず、課題として残りました。

第二ステージの中期経営計画「**Strong Growth 2017**」(2013～2016 年度)は、長期ビジョンの実現に向けて、より強固な礎を築くための重要な 4 年間となります。政府が描く 2025 年の将来像に向けた医療・介護機能再編下での国内事業の持続的成長、今後も市場拡大が見込まれる海外での飛躍的成長を目指すとともに、成長を確実にするための基盤固めを行います。

※1 estimated continuous cardiac output。心電図とパルスオキシメータの脈波から連続的に心拍出量を推定できる技術

※2 12 誘導心電図の波形をもとに、右側誘導、背部誘導の波形を演算により導出する技術

I. 長期ビジョン **The CHANGE 2020 -The Global Leader of Medical Solutions-**

当社は、2020 年の将来像として、下記の 3 点を目指しています。

(1) 世界初の革新的技術の確立

日本光電グループが 60 年にわたり培ってきた確かな技術力とノウハウを原動力として、

- ① 生活習慣病、認知症などの疾病や難治性疾患に対して、国内外の産官学連携を通じて果敢に挑戦し、予防、早期診断、治療に役立つ世界初の革新的な技術を確立することで、健康長寿

社会作りに貢献する。

- ② 新たなパラメータ測定技術の開発やモニタリング技術の優位性確保により、適切かつ効率的な診断・治療支援を行うことで、「医療の安全と安心」の実現に貢献する。

(2) 世界最高品質の確立

購入していただいたお客様にのちのちまで満足いただける最高の品質を確保し、「信頼できるパートナー」として支持され続ける企業となる。

(3) グローバルシェア No.1 の獲得

先進国における高齢化の進展、新興国の飛躍的経済成長に伴う基礎医療の整備などグローバルのヘルスケア市場の変化に的確かつ迅速に対応するため、各地域の特性に合った事業戦略を推進し、最適の事業体制—商品の開発から生産、販売、アフターサービスまで—を構築する。国内外でシェア No.1 の商品群（自社商品）を増やすとともに、国内では全商品群（全自社商品）でシェアトップを狙う。

また、2020年3月期の数値目標として、売上高 2,000 億円以上、営業利益 250 億円以上、海外売上高比率 35%以上を目指しています。

II. 中期経営計画「Strong Growth 2017」

1. 基本姿勢

長期ビジョンの実現に向けて、一人ひとりが自律型社員として、①User Oriented お客様のために自分がなすべきことを実行、②Relationship お客様、社内外のパートナーとの関係を強化、③Global グローバルコミュニケーション力を高め、グローバルな視野で物を考え、実行、④Speed 全てにおいてスピード感を持って取り組むことを基本姿勢とします。

2. 重要課題

(1) 世界トップクオリティの追求

世界中のお客様から日本光電の製品、販売・サービスはトップクオリティと認められ、のちのちまで満足いただけるよう、開発・設計、生産、物流、販売、サービスを含むグループ全部門の全ての活動における品質を確保し、医療機器メーカーとしての信頼を高めていきます。

(2) 技術開発力の強化

- ・医療現場のニーズに迅速・柔軟に対応できる開発体制を構築するとともに、国内外で産官学連携、企業連携を推進し、当社の強みである技術開発のさらなる強化とスピードアップを図ります。
- ・自社グループの基盤技術の融合により、医療の安全・安心、業務効率の改善に貢献する技術・商品を開発し、一段の差別化を図ります。

(3) 地域別事業展開の強化

海外での飛躍的成長を目指し、米州、欧州、アジア州における事業展開を強化します。特に、日本、アメリカ、BRICs を含む新興国市場の事業展開強化に重点的に取り組みます。

① 日本：政府が描く 2025 年医療・介護の将来像に合ったソリューションの構築

当社の強みである急性期病院市場のさらなる深耕とともに、医療の機能分化、医療・介護の連携、地域包括ケアの推進に対応した包括的なソリューションの構築を目指します。

② 先端医療をリードするアメリカにおけるプレゼンスの確立

直販体制および GPO^{※1} 対策の強化と新たな販路の開拓、競争力の高い新商品の投入により、ハイエンド市場の深耕とローエンド市場の攻略を推進し、米国でのプレゼンス確立を目指します。生体情報モニタリング事業では Defensive Monitoring^{TM※2} の販売展開強化、脳神経系事業では全米トップ 50 病院攻略の推進、救命救急分野ではデフィブテック社製品のラインアップ拡充により事業拡大を図ります。

※1 Group Purchasing Organization。医療機関のグループ購買組織

※2 当社がアメリカ向けに開発した PrefenseTMによる医療事故予防のためのモニタリング

③ 成長をけん引する新興国市場でのシェア拡大

- ・中国：現地子会社による開発・生産・販売・サービスが一体となった事業展開を推進します。また、中国生産品の輸出を推進し、生産量拡大による生産効率向上を図ります。
- ・新興国市場：高機能・IT 対応の日本製品によるハイエンド市場戦略と価格競争力の高い中国生産品・現地生産品によるローエンド市場戦略を推進します。また、esCCO など独自技術を活かしたブランド力向上、販売・サービス網の拡充により、事業の拡大を目指します。

(4) コア事業のさらなる成長

グローバルシェア拡大と安定収益確保のため、国内外においてコア事業のさらなる成長を目指します。

【生体情報モニタリング事業】

各地域のニーズに合った医療の安全、業務効率の改善に貢献する商品展開と販売体制の強化、ベッドサイドモニタや医用テレメータにおける競争力の高い新商品の投入、esCCO、CO₂ センサなど独自技術を活かしたブランド力向上により、グローバルシェアの拡大を図ります。

【臨床検査機器事業】

- ・脳神経系群：先進国市場における新たなニーズ[※]、新興国市場における市場拡大に対し、市場をリードする事業展開を推進し、グローバルブランドとしてのポジション強化を図ります。

※ER やニューロ ICU における脳機能モニタリングやリモートモニタリングなど

- ・循環器検査機器群：検査機器のラインアップ拡充と IT 対応の強化、導出 18 誘導心電図など独自技術を活かしたブランド力向上により、グローバルシェアの拡大を図ります。
- ・診断情報システム：日本では中小病院向けのラインアップ拡充と地域医療連携対応、欧州および中国では現地開発の心電図データマネジメントシステムによる差別化を図ります。
- ・検体検査機器：血球計数器・試薬事業のグローバル展開を強化するとともに、免疫試薬のラインアップ拡充により免疫測定機器・試薬事業の拡大を図ります。

【治療機器事業】

唯一の除細動器・AED 国産メーカーとして、救命救急に貢献する商品群の拡充を図ります。また、自社商品とシナジー効果のある先端治療機器の導入を推進します。

【消耗品・サービス事業】

自動化生産や海外生産により価格競争力を向上させ、機器と消耗品のパッケージ提案で拡販を目指します。また、修理・保守サービスやユーザ講習・トレーニングを充実させます。

(5) 新規事業の創造

医療の安全・安心に貢献する、生活習慣病、認知症などの疾病や難治性疾患に挑戦する、地域

包括ケアシステムなどのニーズに対応するといった視点から、自社開発、アライアンス、M&A を積極的に推進し、将来のコア事業となりうる新規事業を創造していきます。

【治療機器事業の拡大】

- ① アライアンスの強化により麻酔器、人工呼吸器の商品ラインアップを拡充し、ソリューション提案の強化を図ります。
- ② 救命救急関連機器の開発に挑戦し、院内・院外における救命救急市場の展開強化を図ります。

【脳神経機能診断・治療・リハビリ機器事業の創造】

アルツハイマー病・うつ病の早期診断、神経疾患の治療につながる技術などの開発に挑戦し、脳神経機能障害の診断から治療・リハビリまでのトータルソリューションを構築します。

【パラメータ事業の創造】

当社の特長ある SpO₂、CO₂ センサの臨床的価値および認知度を高め、センサメーカーとしてのブランドを構築、パラメータ事業の創造を図ります。

(6) 企業体質の強化

事業環境の変化に適応し、医療機器で世界のリーディングカンパニーとして変革していくため、「グローバル化」「効率性」「スピード」を追求した筋肉質な企業体質の実現を図るとともに、持続的発展に向けた CSR、人材育成の取り組みを強化します。

3. 「Strong Growth 2017」の経営目標値 (2017年3月期連結)

	2012年度実績	2016年度目標値
売上高	1,325億円	1,700億円
うち国内売上高	1,102億円	1,215億円
うち海外売上高	223億円	485億円
営業利益	134億円	180億円
ROE	12.7%	13.0%

【地域別海外売上高】

	2012年度実績	2016年度目標値
米州	80億円	195億円
欧州	56億円	100億円
アジア州	75億円	170億円
その他の地域	10億円	20億円

為替レート的前提：90円/米ドル、118円/ユーロ

4. 主な設備計画

知的生産性と開発効率の向上を図るため、本社開発環境を整備します。また、生産量の拡大に対応するとともに、さらなる生産効率の向上とコストダウンを図るため、工場の自動化と拡張を進めます。

以上

本資料に記載されている内容は、将来に関する前提、見通し、計画に基づく予測が含まれており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。